第3回野々市町新市名称検討委員会

会 議 録

1. 日 時

平成22年5月11日（火） 午後1時57分から午後2時25分まで

2. 場 所

野々市町役場 2階201会議室

3. 次 第

1 開会

2 議事

1) 「住民意識調査」の集計結果について（報告）

2) 市制施行に向けた新市の名称について（答申書案）

3 その他

4 閉会

午後1時57分 開会

徳田委員長：定刻少し前ですが、ただいまより第3回野々市町新市名称検討委員会を開催いたします。

本日は、2月22日に開催した第2回委員会で確認をし、町が4月に実施をした住民意識調査の項目に掲げた「野々市市」の名称(案)に関する集計結果の検証を行い、その後、改めて本委員会としての答申書(案)及びその内容について検討して参りたいと思います。

それでは、早速ですが本日の次第に従いまして、議事2－(1)の住民意識調査の集計結果について、事務局より報告をお願いしたいと思います。

事務局：「市制施行に向けた住民意識調査」の集計結果について説明（資料1参照）

徳田委員長：ただいま報告のありました「市制施行に向けた住民意識調査」の集計結果について、委員の皆様からご意見、ご質問などはありませんか。

＝ 意見、質問なし ＝

続きまして、議事2－(2)の「市制施行に向けた新市の名称」にかかる答申書(案)及びその内容について、検討を進めて参りたいと思います。

答申書(案)及び内容につきましては、項目ごとに事務局に読み上げていただきまして、その後、それぞれの項目について審議を行うという形で進めて参りたいと思いますので、委員の皆様にはあらかじめご了解をお願い致します。

事務局：答申書(案)内容について、各項目ごとに読み上げる。

徳田委員長：最初に、前文について委員の皆様からご意見などはありませんか。

＝ 意見なし ＝

答申内容及び答申の理由について、委員の皆様からご意見などはありませんか。

木越 委員：答申の理由にかかる文章の中で、正確を期すという意味で表現を変えた方がよいので

はないかという部分について、意見をしたいと思います。

1点目は、1312年に記されたとする部分で「三宮古記という古文書に」という標記なのですが、正式には古文書つまりそれまでに記されていた古い記録を集めて、その後三宮古記として編集をしたというのが正しいので、この部分は「三宮古記という」の7文字を消去の方がより正確ではないかと思います。

2点目は、冒頭部分の御経塚遺跡の説明の部分に当たる「栄えた」という標記についてですが、縄文時代の集落が栄えたという表現はいかがなものでしょうか。

表現としては「営まれた」とする方が、適切なのではないかと思います。

加えて、御経塚遺跡と末松廃寺は町の宝であり、かつ国指定史跡であるので、ここは国指定史跡であるということを、強調した方がよいのではないかと思います。

3点目は、水引神人の読み方ですが「みずひきじにん」というのが正確な読み方です。水引神人は、当時の水引き幕を地域で独占的に製作、販売を許されていた紺屋さんに働く人を指します。できれば、振り仮名を設けるといった工夫がある方がよいのではないのでしょうか。

4点目は、結論の②の最後の表現なのですが「文化、財産」と、していますが、「文化」と「財産」の間にあって「、」を設けた理由はあるのでしょうか。

「文化財産」でも十分に通じると感じるのですが…以上、感じたことを述べさせていただきます。

徳田委員長：ただいま、木越委員からありました意見につきまして、審議をして参りたいと思います。

まず、1点目の「三宮古記という」7文字を消去するという意見についてですが、いかがですか。

＝ 異議なしの声あり ＝

2点目の「栄えた」という標記を「営まれた」とする意見についてはいかがですか。

＝ その方がよいという声あり ＝

御経塚遺跡と末松廃寺の説明に国指定史跡の標記を加えるということについてはいかがですか。

＝ その方がよいという声あり ＝

3点目の水引神人の標記に「みずひきじにん」という振り仮名を付けるという意見についてはいかがですか。

= 異議なしの声あり =

4点目の「文化、財産」という標記を「文化財産」とすればどうかという意見についてはいかがですか。

西田 委員：この「文化、財産」の意味は「文化」であり「財産」であるという意味だと判断いたします。従って、この表現はこのままでも通じるのではないかと思います。

木越 委員：私も、そのように読めるとは思いましたが、あえて「、」を付ける必要があるのかということを感じたので発言をしたものです。

徳田委員長：ほかに意見はありませんか。

私も、西田委員と同様の意見ではありますが、ここは正確な答申ということに配慮をし、表現は「文化」であり「財産」であるとした方が、はっきりしてよろしいのではないかと思いますのでいかがでしょうか。

= 異議なしの声あり =

そのほかに、ご意見などはありませんか。

= ありませんという声あり =

それでは、答申書及びその内容につきましては、ただいまいただきました内容に修正をすることに決定をいたしました。

事務局には直ちに答申書の修正作業をお願いしたいと思います。

そのほか、本日の委員会全般にわたりご意見、ご質問などはございませんか。

木越 委員：最初に聞けばよかったのですが、今回のような全町的に行うようなアンケートの事例といったものはあるのでしょうか。

また、事例があるのであれば今回の回収数と回収率について、町としてどのように考

えているのでしょうか。

事務局：町として全町的にアンケートを行ったというものは、他にも前例があります。

そして、今回の住民意識調査の回収については、比較的多く回収することができたという感想をもっております。

今回は全世帯20,423票を配布し、回収数は5,760票(28%)という結果でありましたが、統計学的には、20,000に対して3,000のサンプルを集めることができれば、かなり高い精度の成果で、実情に近い分析ができるとされておりますので、そういう意味から言えば、当初考えていた回収数よりも多くのサンプルを集めることができたと考えております。

ちなみに、今回の回収期間中に当たる4月16日時点で約4,000票が集まっておりますので、一旦このサンプル数を基に単純集計を試みました。

そして、締め切り(4月20日時点)の今回5,760票での集計結果と比較を試みましたが、各項目の集計比率は同様の結果でありました。

徳田委員長：そのほかにご意見が無いようですので、その他ということで答申の方法について決めて参りたいと思います。

私個人といたしましては、当委員会の人数はそう多い会でもありませんし、事前に事務局を通じて、本日の栗町長の日程をお伺いしましたところ、この後少し時間を取れるような状況であるとのことでもあります。

このことから、できますればこの委員会終了後に、委員全員で栗町長のところに赴きまして、答申に臨みたいと思いますがいかがでしょうか。

＝ 異議なしの声あり ＝

それでは、この後の答申に向けた準備を事務局の方で進めていただくようお願いいたします。

事務局：事務連絡

午後 2 時 2 5 分 閉会

午後 2 時 3 0 分 応接室へ移動し答申を行った。(15 分間 懇談)